

キリスト教教理入門

1. 神学をすること
2. 神の啓示
3. 神の性質
4. 神のみわざ
5. 人間
6. 罪
7. キリストの人格
8. キリストのみわざ
9. 聖霊
10. 救い
11. 教会
12. 終末

第十部 救済論

- 30章 救いの概念
- 31章 救いの先行性: 予定
- 32章 救いの始まり: 主観的側面
- 33章 救いの始まり: 客観的側面
- 34章 救いの継続と完成

第31章 救いの先行性: 予定

1. 予定についての相違する見方
 1. カルヴァン主義
 2. アルミニウス主義
2. 解決の示唆
3. 予定のもつ意味合い

序

1. 予定の教理は、最も困惑させ、最も理解しがたい教理である
2. 「予定」という用語において意味されているものを正確に定義すること

1. 予定についての相違する見方 カルヴァン主義

1. カルヴァンとアルミニウスの対照的な体系化
2. 全的墮落
3. 神の主権
4. 選び
5. 無条件
6. 主権的意思の表現
7. 選びと自由意志は矛盾しない
8. 遺棄の概念では多様性

1. 予定についての相違する見方 アルミニウス主義

1. 多くの下位層を抱えている
2. 神はすべての人が救われることを望んでおられる
3. 全人類の救いへの願い
4. すべての人は信じるのが可能である
5. 先行的恵みの付与
6. 予知の役割
7. カルヴァン主義の無条件・完全への反対
8. カルヴァン主義は宣教への情熱を否定する
9. カルヴァン主義は人間の自由意志に矛盾する

2. 解決の示唆

1. 救いに関する神の聖定
2. 聖書のデータの研究
3. 生まれつきの人間の救いの不可能性
4. 神の助けなしに福音に応答不可
5. 反応 - 神の前もっての決定
6. 予知の議論には説得力がない
7. 救いの普遍的提供・一般的招待は？
8. そのような状況に真の自由はあるのか

3. 予定のもつ意味合い

1. 神が決定されたものは実現されると確信をもちうる。
2. ある人々がキリストを拒絶するとき、私たちは私たち自身を責める必要はない。
3. 予定は、伝道と宣教を無効とはしない。
4. 恵みは完全に必要なものである。